

『商経論叢』の再発足にあたって

平成8年度より旧来の商経学会が経済学会と商学会に分離・独立し、それぞれの学会が独自の機関誌を発刊する運びとなった。すなわち、商学会は従来の『商経論叢』を引き継ぎ、経済学会は『エコノミクス』を創刊することになったのである。

振り返ってみると、『商経論叢』に関しては、平成5年4月1日より商学部経済学科が分離独立してからも実に3年もの間、両学部教員はお互いに競いあい刺激し合いながら1つの機関誌の質的向上に努力してきた。この間12冊の『商経論叢』が発刊され、その成果を世に問うてきた。しかし茲に到って遂に両学部は袂を分かち、別々の機関誌に頼って研究業績の声価を競い合うことになった。

商学会は、新たに門出した経済学会が新機関誌『エコノミクス』を旗印に掲げ今後永劫にわたって着々と成果を挙げられることを祈念する。商学会は九州産業大学の母体たる商学部の発展に寄与する為努力を続ける証しとして、伝統ある『商経論叢』をそのまま継承することにした。

『商経論叢』たる機関誌名を継承する謂れはそれだけにとどまらない。商学部教員集団は商学系、経営学系および会計学系の3系統を構成している。すなわち、商学・経営学（会計学）を柱としている。いわゆるビジネスと言う意味での経営であり、“商経”の名を機関誌名に冠しても通用するとわれわれは考えたからでもある。今後のわれわれ教員集団の研究と教育に対し、大方のご叱正を請う次第である。

商学会会長 石原 定和
商学部長